



化学が好きで、薬に興味

中学の時から、理系科目が好きでした。数学や理科の勉強に特化した理数科がある高校へ進学しました。大学進学時は、どこの学部に進むとしても「博士号を取得したい!」と漠然と考えていました。幼い頃から自分自身の体が弱く、薬に頼る機会が多かったことを思い出し、薬の研究ができる大学に進みたいと考えました。北海道から出てみたい気持ちもありました。やりたいことが学べそうと思い、富山大学の薬学部、創薬科学科を受験し、進学することに決めました。

日本全国から学生が集まる薬学部

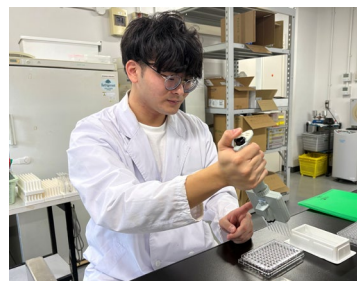
富山大学に進学して驚いたことは、日本全国色んなところから学生が集まっていることです。食べ物ひとつでも、文化が全然違うことのインパクトが大きかったです。大学進学と同時に一人暮らしを始め、実家の味が恋しくなりました。北海道は飛行機一本で帰れるとはいえ、しょっちゅう帰れるような場所でもありません。親に頼んで実家で食べていた料理のレシピを教えてもらい、自分で再現できるよう頑張りました(笑)
また、北海道は隣の市街地に出るのに1~2時間車を走らせるのも普通ですが、富山では金沢まで1時間もせずに行けることに驚きました。

薬から免疫を考える

研究室配属の時に、身体の防御機構がどういう風にできているのだろうと興味を持ちました。宗孝紀先生の分子細胞機能学研究室に入り、免疫をターゲットにした薬の研究を進めることに決めました。
研究室ではひたすら実験の日々です。免疫の反応を見るためにマウスを使用します。実験のための解剖も半日かかります。一番大変なことは、細胞のペースに合わせないといけないことです。飼っている細胞が増えたらほかの場所へ移すなどの対応が必要です。細胞には言葉も通じないので・・・(笑)

学会に出て、幅広い視野を得る

2025年3月福岡で開催された日本薬学会第145年会でポスター発表を行いました。タイトなスケジュールの中、実験の結果を出すことに精一杯でしたが、何とか発表できました。研究室にいてどうしても学外のことを知る機会が少ないので、他の大学生の研究を見て「もっと頑張ろう!」というモチベーションにつながりました。発表を終えて自己評価は「まだまだ」というところでしたが、必死で進めた研究で学生優秀発表賞を受賞することが出来ました。とても嬉しく、更に頑張ろう!という気持ちになりました。



研究の成果に結びつけられるように

一連の免疫系の反応を解析するために、多くの実験技術を身に付けたいと思いました。論文を一本書く上でも、自分で理解して書きたいと思ったことがきっかけです。博士後期課程に進み研究を続けたいと考えていて、教授に「色々なことを経験させて欲しい」とお願いしました。博士前期修了が近づいてきた今、ようやく少しずつですができることが増えてきたなという感覚です。教授の熱心な指導を受け、努力を続けていきます!

母校の後輩たちへ

漠然としていても良いので、何か目標を見つけてそれに向かって頑張ってください。大学に入ってからいくらでも具体的な将来の目標を考える機会にはたくさんあります。後悔しないように自分の進路を決めていってください。応援しています。